

— 秋田県梅花流師範・詠範の会 —
梅花を愛する皆さんと共に



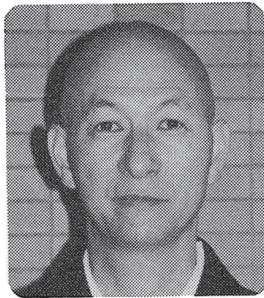
平成11年10月20日
 第 16 号

題 字 大館市 宗福寺 先々住
 初代会長 故加藤信三老師
 発行所 南秋田郡五城目町富津内
 待 月 院 内
 秋田県梅花流師範・詠範の会事務局
 発行者 柴 田 弘 一
 編集者 (広報部) 保坂春穂
 印刷所 北秋田郡合川町合川
 米倉印刷所
 ☎0186-78-2324

今年度より「秋田県梅花流師範会」の名称が「秋田県梅花流師範・詠範の会」に変更になりましたが、はからずも不肖私ふしょうが会長に推され、二年間つとめる事になりました。

どちらかと言えば人のあとに着いて行くタイプなのでその任に非ず、と自覚致しておりますが、ことここに至ってそれも言っておれず、これからまわりの方々のご支援とご協力をいただき乍ら、前会長相川寺さまのあとを引きついで何とかその任をつとめて参りたいと存じます。

願ねがひみますと、先達各位の熱意に依って育よまれてきた梅花流も、現在県内講員は五千名弱を擁よっておりますが、その活動の中心となっていたのが「師範会」であり、その面々でありました。これからも事業活動等、先達の



秋田市金足
 東泉寺住職

宗 田 弘 一

方々がまもり受け継いで参った内容を踏襲たうしやうする形となりませんが、詠範の方々と共により充実した内容にして行ければと考えております。

活動（事業）は「講員一泊研修会」「師範・詠範研修会」「同行誌発行」「宗務所主催県奉詠大会並検定会への協力」等々であります。

来る平成十四年は、梅花流創立五十周年を迎えるわけですが、昭和二十七年に高祖道元禪師七〇〇回忌に創立された梅花流の主旨りようそは兩祖りょうそ（高祖こうそさま、太祖たいそさま）のみ教えとお徳を皆々に知らしめる方法として、でありました。半世紀を目前に、そのあたりをもう一度点検しなければならぬ時期である様にも思います。

講員さんの高齢化、趣味の多様化、ハイテクの時代まっ盛りであり、梅花流も徐々にではありますが、変化しつつあります。皆で考えを寄せ集め研修内容や講員増の手だてを工夫して行かなければ、と考えている次第です。今後何卒よろしくお願い申し上げます。

シリーズ おらほの梅花講

山 院
松 江
泉 乘

住所 南秋田郡井川町黒坪
設立 平成三年七月
講長 佐藤 秀弘
講員 十九名

乗江院梅花講は、平成三年七月の設立で、当初お寺の要請に相当数の賛同者がありましたもの、現在は十九名とどうか体面を保っている程度ですが、少数精鋭でかえって団結力もあり、これまでの検定には全員揃って合格し今日に至っているところです。毎月二回の練習ですが、一回は待月院嶋森先生による懇切丁寧ながらも厳しい指導を受け、あと一回は当寺奥様の指導による自主研修を行っております。



検定は平成四年九月が最初で、その後五年、六年と続き、

九年に漸々中教導に補任されたところ。目下次の検定を目ざして真剣に取り組んでいます。段々難易度が高くなり一同苦労しているのが実状です。

ただ梅花講の精神は、家庭・隣人・地域社会・或いは国家・世界のことに思いをいたし、「和」と「愛」の心を掲げ、自から一歩でも「御佛」に近づきたいという崇高さを感じるところにあるものと思えます。

従って今日は唯々詠ずる！

ことに集中し少しでも長く続けられますように心がけております。勿論次の検定に対する努力を惜しむものではありません。

とりあえず今年の二大行事である涅槃会の奉詠と秋田県奉詠大会は無事終了し安堵いたしましたところで。

当講員も徐々に高齢化してまいりましたが、何んとかみなさんで手を取り合って継続して行きたいものと思っております。

今後共関係者皆々様の

受話器から梅花が聞こえる

- 10月16日〜報恩供養御和讃 P231
- 23日〜報恩供養御詠歌 P235
- 30日〜報謝御和讃 P255
- 11月6日〜慶祝御和讃 P251
- 13日〜高祖承陽大師讚仰御詠歌 P155
- 20日〜太祖常済大師讚仰御詠歌 P161
- 27日〜大聖釈迦如来成道御和讃 P77
- 12月4日〜大聖釈迦如来成道御詠歌 P81

テレホン梅花予定表

公〇一八一八七三二七六七六

一層のご指導、ご鞭撻をお願いいたします。

紹介者 講員 伊藤滋子

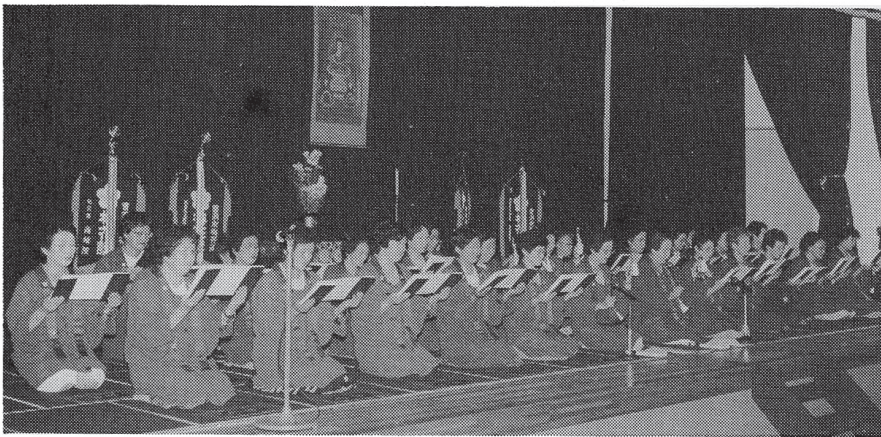


住所	由利郡仁賀保町 平沢字上町七四
設立	昭和三十九年八月一日
講長	植木 祖峰
講員	三十七名

龍雲寺梅花講は昭和三十九年に結成され、佐藤慈明先生の御指導のもと約四十名で発足致しました。

当時、先代孝禅和尚様が宗務所長をされていた関係で、県内でも早い方の結成でありました。然し年と共に講員が減り、先生がお忙しくなられました、先代奥様を中心に毎月二回昼集まって自主研修をされておりました。

昭和六十二年若手の主婦達の強い要望がありまして、禪林寺様山中律雄先生の御指導のもと、二期生として三十名程度で再発足致しました。先輩の方達も後継者が出来て良かったと大変喜んでくれました。以来十二年、初めは何も解らず苦労しましたが熱心に毎月二回、夜二時間のお勉強に



より楽しく過ごすことが出来るようになりました。先生は練習を一回も休む事もなく私達を励まし、反復練習を繰り返しながらの教えに一生懸命ついて来られました。時々は御詠歌の解説、仏事作法等教えてくださいます。

春秋の彼岸会、三月の涅槃会、四月の花祭り、お地藏様のお祭り、その他お寺の法要行事の際、講員や近隣のご不幸の際等に奉詠供養させていただいております。特に七月二十三日のお地藏様の例祭には、禪林寺様、高昌寺様の講員の皆さんに参加していただき、心から感謝しております。

近くのお寺で講習会がある時や検定会、県南大会、全県・全国大会、秋の研修旅行等全員ではありませんが毎年参加しております。みんなも御詠歌をお習いするようになってから、物事に対して積極的に行動でき、前向きに考えるようになったと云っております。梅花講員となって仲間とめぐり

受話器から梅花が聞こえる

11日 修証義御詠歌

18日 大聖釈迦牟尼如来讃
仰御詠歌

25日 坐禅御詠歌

平成12年
1月1日 観世音菩薩御詠歌

8日 花供養御和讃

15日 太照常済大師影向御和讃・御詠歌

22日 四摂法御和讃

29日 誓願御和讃

※リクエストや、ご意見、ご感想等をお待ちしております。

〒010-0111 秋田市金足岩瀬字前山三
東 泉 寺 宛

逢うことが出来、先輩の方々とも（九十才代）一緒に学んで行けることの喜びを大切に、明るく、なごやかに、そして老齢に入っただけからは生涯学習として楽しく続けて行きたいと念じております。

紹介者 講員 金澤ミヨ子

全国奉詠大会に参加して

鷹巣町 寶勝寺 藤 島 康 一



北秋の鷹巣町から長野市までのバスの旅は、東北自動車道・磐越自動車道・北陸自動車道・上信越自動車道を乗り継いで七九一kmの行程でしたが、車窓からの新緑は旅の疲れを癒して余り有るものでした。また、初めて見る妙高の山並みは、山頂に残雪を頂き私たちを暖かく迎えてくれました。

善光寺様の宿坊「兄部坊」で精進料理を頂いて初日を過ごし、翌朝、貫主様・お上人様からお数珠を頂戴し、戒壇めぐりを行い、内陣で参拝をして、いよいよ大会会場である長野県「ビッグハット」へと向いました。

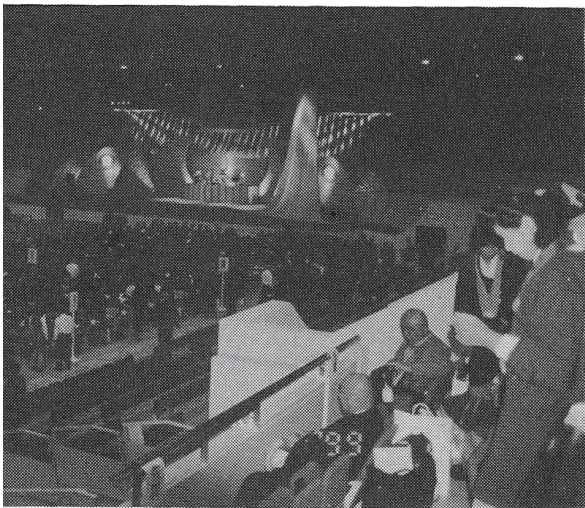
今度で四度目の参加ですが、いつもながら開会式（法要）には心打たれるものがあります。言葉で言い表せぬ厳肅な雰囲気（ふんいき）に襟を正さずにはいられませんのでした。

献灯献花の緊張した面差ししの幼稚園児に、仏の御子の浄き姿を見ることができ、開会の言葉に続く「三宝」「紫雲」の奉讃、般若心経の読経・回向は大会の雰囲気

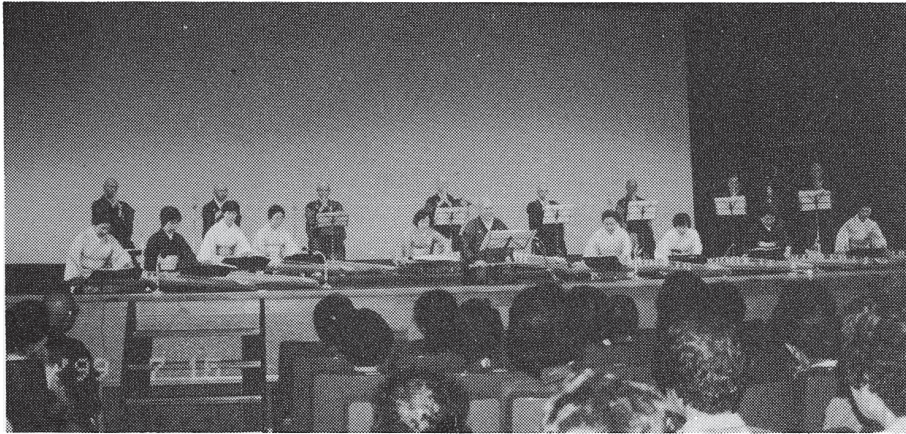
気を盛り上げ、身も心も引き締まる思いがいたしました。そして管長禅師様との相見、御垂示は誠にありがたきことで、大会へ参加した幸せを実感させていただけました。

登壇奉詠は、緊張の中にも講員としての誇りと、喜びが満ちあふれ、聞く者の心を和ませてくれるものでしたし、ご精進の程が伺われました。全国津々浦々から参加されたたくさんの方々との出会いに、宗門の隆盛を感じました。

閉会式は、「浄心」で静坐し、閉会の言葉に続いて「同行御和讃」で幕を閉じましたが、大会会長宗務総長乙川老師を初めとする各師の行き届いた心くばりと参加講員の熱意で素晴らしく、そして盛会な大会でした。



千六百人がつどう —秋田県奉詠大会—



県北地区 7月15日 大館市文化会館大ホール



中央・県南地区 8月2日 西目町民センター「シーガル」

帰りは、群馬県安中市磯部温泉「磯部ガールズホテル」福島県石川町母田温泉「八幡屋」に二泊し、「だるま工場」見学、高崎市の大観音様、館林市の茂林寺(分福茶釜のお寺)、いわき市の願成寺白水阿弥陀堂を参拝いたしました。

「同じ仏の御子として むすび心の浄き友」との旅は楽しいものでした。夢は、来年の福井県に飛んでいます。

合掌

禅センターの梅花講習

檀信徒講習会(午前十時〜午後三時)

●十一月十二日 高祖承陽大師讚仰御和讃

高祖承陽大師讚仰御詠歌

柳川浩二師 葛谷達徳師

●十二月十日 大聖釈迦如来成道御詠歌

大聖釈迦如来成道御詠歌

葛谷達徳師 保坂春聴師

●二月十日 大聖釈迦如来涅槃御詠歌

大聖釈迦如来涅槃御詠歌

富岳正純師 小野碩瑛師

●三月十日 地藏菩薩御詠歌

地藏菩薩御詠歌

佐藤俊晃師 三浦賢翁師

宗侶寺族講習会(午前十時半〜午後三時半)

●十一月十五日 「菩提」高祖様を主に

講師 柴田弘一師

●十二月十五日 「法灯」高祖様を主に

講師 本間俊英師

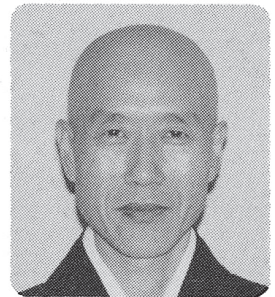
*禅センターは秋田市泉三嶽根十五〜十八

電話 〇一八一八六八一六八七一



聞きました！ 見えました！ 感動しました！

お手紙拝見——



福島県会津若松市

恵林寺

佐藤 憲 晃

この度秋田県内を八日間に亘りまして巡回させて頂いていただきました。講員の皆様と共に「梅花」の心を学ぶ機会を得ましたことまことに有難く、尊き御縁に厚く御礼申し上げます。

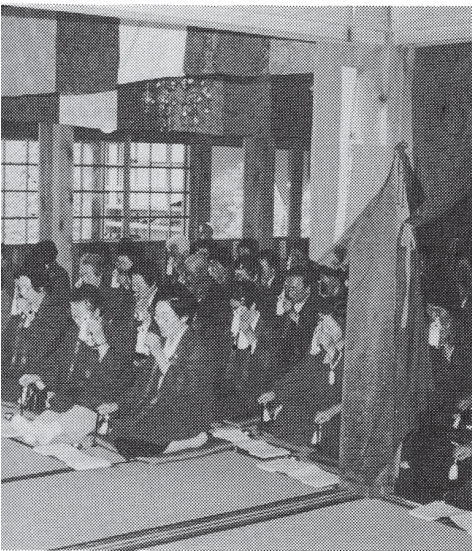
巡回中に各師範、詠範の方々より心あたたまる御法授を頂戴いたし感謝をいたしております。講習に関しましては精一杯つとめた所存ですが、振り返りますと多々反省すべきところが浮かんでくる次第であります。御寛

容のほどお願い致します。

編集部よりの原稿依頼を引き受けましたので、私の「梅花流詠讃歌」への学び、その接点を述べてみたいと思います。

梅花流のお唱えを聞いておきますと、その調べやリズムがおのずから感情をおだやかにさせてくれます。時に波立った小さ愚痴や腹立ちが、理屈ぬきにしておさまります。音調がやすらぎをもたらしてくれるのでしよう。

情のすさみが消えること。すさみは心の荒い波をしめすと考えていますが、感情のすさみは、理論を聞いてもなかなか消えないものです。私は「梅花流」を習う時間をもつことで、度々「すさみ」のない、おだやかさに帰ることが出来ます。第二点は、やさしい歌詞にみられる、教えの自然さであります。誰もが日頃普通に使用している言葉。それ故に唱えやすく抵抗が少ないのであります。そして、



そのやさしい言葉に無限の深さが宿されていることに気づかされます。何回も口ずさむ歌詞ですので、その深さや重さは、書物での味わいとは異なる響きを与えてくれます。講員の皆様と一緒に、歌詞を学び合える楽しさはほのぼのとしたりやすらぎでもあります。

これらの「梅花流」との接点を支えているもの。それは「坐禅」です。坐禅に親しみ、また、しずけさのあるゆったりとした呼吸に親しみつつ、梅花への学びを続けていきたいと願っております。

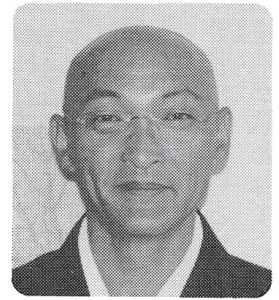
合掌

佐藤憲晃師範巡回地

月 日	教区	教	場
6月23日	15	雄勝郡羽後町	宝泉寺
6月24日	14	由利郡仁賀保町	快禅寺
6月25日	3	由利郡由利町	慶祥寺
6月26日	4	本荘市内越	香泉寺
6月27日	7	仙北郡協和町	徳昌寺
6月28日	1	秋田市新屋	天龍寺
6月29日	12	秋田市四ツ小屋	円通寺
6月30日		秋田市	禅センター

秋田県を巡回して見て

——特派師範からの



静岡県藤枝市

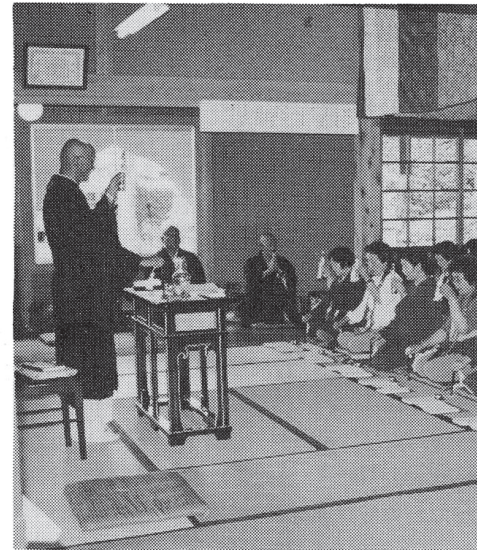
中正寺

三浦信孝

まずはじめに、秋田県
県北、県南地区奉詠大会
のご盛会をお祝い申し上げ
ます。

秋田県管内の各御尊董
老師はじめ、詠範の皆様、
講員の皆様におかれまし
ては、ご清祥のことと大
慶に存じます。

また、特派講習会会場
をお引き受けいただきま
した各会場主の方丈様方
に御礼を申し上げますと
共に、各会場におきまし
て身に余るご厚遇を賜り
衷心より感謝申し上げます。



平成九年に県南地区を巡回させて戴き
ましたが、二度目の錦地巡回とはいえ、
初めての県北地区ですから緊張して鹿角
市に入りました。お迎え戴きました方丈
様に、尾去沢鉦山おきりざわをご案内していただき、
坑内の低温に私の咽喉のどを心配して戴き
恐縮おそく致しました。

そして、巡回してみますと、受講者の
皆様の実に明るく笑顔ばかりに驚き、梅
花流詠讃歌を楽しんでお唱えされておら
れたように感じました。改めて梅花流の
方向性を見つめた思いが致しました。指
導されている師範、詠範の方々が「お誓
い」を柱として教化されておられる事も、
巡回させて戴き感じた事でありませう。そ
して毎年奉詠大会が開催される事は、皆
様がそれぞれに努力精進している事が伺
えます。

曲の解説、環境問題、人権問題等のお
話にも耳を傾けて戴き、ご理解示して下

三浦信孝師範巡回地

月 日	教区	教	場
6月22日	11	鹿角市八幡平	大徳寺
6月23日	18	北秋田郡田代町	洞雲寺
6月24日	18	北秋田郡鷹巣町	浄運寺
6月25日	10	北秋田郡上小阿仁村	常光寺
6月26日	9	能代市仁井田	倫勝寺
6月27日	9	山本郡山本町	見性寺
6月28日	2	南秋田郡井川町	乗江院
6月29日	13	男鹿市船川港	大龍寺
6月30日		秋田市	禅センター

さいました。非才非力故、ご期待に添い
える事は出来ませんでした。講員皆様方と
楽しく講習出来ました事、多くの方丈様方
と御縁を賜りました事大変嬉しく存じてお
ります。

合掌

こころをよむ (14)

高祖承陽大師誕生御和讃

- (一) 正治の二年初春の
瑞気たなびくめでたさに
父はときめく権門の
母は摂政基房の
御法の御子の誕生に
歎喜みちて今日よりは
春は花咲き秋は月
さとのりの山や吉祥の
- 都の空は澄みわたり
生まれたまひし承陽尊
久我内大臣通親卿
御息女にてましませり
天はほがらか地はのどか
仏の御国あらたなり
夏ほととぎす冬は雪
南無や永平承陽尊

す。真実がヌツと顔を
出した「永遠の今」の
風景が詠み込まれてお
りましよう。

千利休は茶の極意を
問われ「ただ湯を沸か
し、茶を立てて飲むば
かりなり」と答えたそ
うです。秀吉に寵愛さ
れ、大名を何百人も集
めるような茶会を行い、
最後には茶の湯が理由
で切腹した人が「茶の

まさしくこれは「春ははな夏ほととぎす
秋は月冬雪さえてすずしかりけり」の境地
と重なり合うもので、目的や手段でなく、
途中の過程そのままが本当の生き方である
ことを私達に教えてくれています。

『春は花咲き秋は月 夏ほととぎす冬は雪
さとのりの山や吉祥の 南無や永平承陽尊』
この四節目の歌詞は今まで述べたようなこ
とを下地に詠まれており、ただひたすら道
元禅師を帰依するありがたさが蔵されてい
ます。

道元禅師は正治二年（西暦千二百年）の
お生れで、来年は生誕八百年の節目に当る
大変おめでたい年でもあります。その慶事
に因んだ様々な催しが行われていますが、私
達にとって何より大切なことは、幼くして
強く仏法にひかれ、発心し、仏道修行をな
さった行跡を偲び、道元禅師のみ教えに思
いを馳せることにあるのです。

「春ははな夏ほととぎす秋は月冬雪さえ
てすずしかりけり」という有名な歌は道元
禅師のもので、みずからの心情を洗練透徹
した見事な作品でありましょう。

春に花が咲く、夏にはほととぎすが来て
啼く、秋は白々とした月光が美しく、冬に
は雪が積もる。ごく当り前の情景で、ひと
つとして不思議がありません。それぞれの
季節の中にそれぞれの現象が姿を現わし、
それ以外には季節の現われ方はないという
絶対的真実がここにあるといのです。全
ての季節それぞれに共通の世界の真実が現
われていて何一つとして変わることはない、
そのことを思うと心が非常に涼しいという
道元禅師の深い宗教的境地が歌われていま

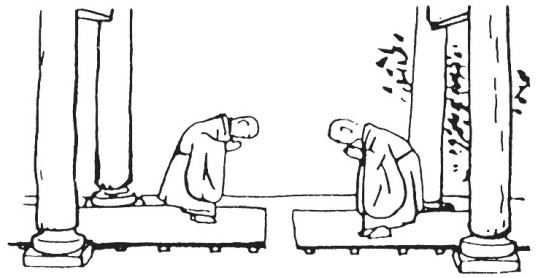
湯」と聞かれて、「ただ湯を沸かし、茶を
立てて飲むばかりなり」と答える。私自身
も茶会に出たことがあります、それとな
く見てみますと、茶会には色々な約束事
があります。湯のたぎる音を聞きながら、決
られた点前をどどこおりになく次々とこな
してゆく。それが徹底してくると意識するこ
となく点前をこなすことが出来るようにな
る。次はこうやろう、その次はああやろう
と思っっているうちはダメ。無心にやればい
いと意識しているうちもダメ。意識もダメ。
無意識もダメ。結局は「ただ湯を沸かし、
茶を飲むばかりなり」です。その絶対的現
実に到達することこそが茶の極意であると
千利休は言っています。



仁賀保町
禅林寺住職
山中律雄

チヨット ぶじよほう

好きです



平成九年六月より二年間、梅花流師範養成所にて勉強させて頂きました。

実は私、カラオケもほとんどしませんし、楽器をいじってもだめ、かなり音楽のセンスはないと確信しておりましたので、御詠歌なんてとんでもないと思っておりました。しかし、お寺に梅花講があることもあり、師匠から「行って来い、いけば四級もらせるから」と言われ、「まー東京にいけるからいいか!」と割り切り、ほとんど準備もせずに第一回目の講習に挑みました。

ところがどっこい、開講式に出てみたら「どこかで見ただことのあるお坊さんがいる。柴田先生だ!」前もって資料を頂いていましたから当然知っていなければいけないかったです。前もって資料を頂いていましたので、前述の通りの気持ちでした。

で、ほとんど目を通しておりませんでした。

「うーん同県のおっさんが主任講師さんだからあまり恥かしいこともできないか」気を引き締めて講習に臨みました。がしかし「わからん!」三宝御和讃ぐらいは何とか聞きました。それ以外は声がぜんぜんでできません。しかも鈴鉦が全くいうことを聞いてくれません。回りを見るとみんなそれなりにこなしています。話を聞いてみますと、かなりの人が地元で講習を受けたり、ある程度練習を積んで講習に臨んだと言うことでした。頭がまっ白になるのを感じつつ四泊五日の講習を何とかこなし、家に帰って第一声「うそつき!」とりあえず行けば何とかなるなんて事ほとんどないことだと気がついた私でした。

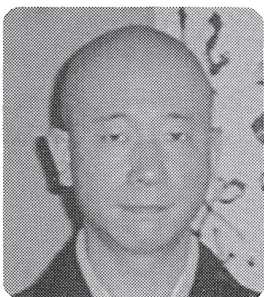
講習会も回を重ねいろんな事を教わっていくうちに、だんだんお稽古も楽しくなってきました。曲や作法の難しさもさることながら旋揺(せんよう)にいたってはとてつもなく難しい。その難しさが又おもしろいです。稽古を重ねれば重ねるほど、本当に少しずつなのですが自分のお唱えが変わっていくのがわかり、そのことが大変な喜びに変わっていききました。

研鑽を進める上で、養成所の先生方はもちろんのこと、近隣の師範の先生、長谷寺の梅花講の皆さん、梅花を通じて接した多くの方々には本当にお世話になりました。

講師の先生にはしつこいぐらいの質問をしても嫌な顔一つせずご教授いただきました。講師さんたちにも、上座に座らせていただき教えるという形を取らせていただきました。私に間違ったときにはすぐさまご指摘を頂きました。講師さんのお稽古は、これから師範としてやっていくことの責任の重さを感じさせて頂くとともに、自分自身の研鑽の場として大変重要なものだったと思います。

柴田先生はしばしば「梅花が好きになっ
てほしい」と言われました。お陰様で今ではすっかり梅花の魅力にとりつかれました。そして最後の講義では、同行御詠歌をお唱えいただき、そのお唱えに深く感動しながら梅花流詠讃歌のすばらしさを感じ、受講の機会を授けていただいた事に深く感謝致しました。

これから皆様にはお世話になる事と思いますが、養成所での感動を忘れず、今以上に梅花を好きになっていきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。



本莊市
長谷寺副住職
浅田高明

感動！ 梅花講員 一泊研修会

県北地区

会場 太平寺（合川町上杉）
 期日 10月29日(金)～30日(土)
 日程 一日目 午前9時 受付
 二日目 午後3時 解散
 対象 9教区、10教区の梅花講員、
 詠範、師範
 内容 ・詠讚歌練習・勤行・坐禅
 ・講話(歌詞説明)
 ・万灯供養など
 会費 6,000円(申込金 1,000円
 当日会費 5,000円)
 定員 60人
 申込先 〒018-4741
 北秋田郡阿仁町
 字幸屋字菅ノ沢17
 耕田寺
 TEL/FAX 0186-84-2036

鹿角地区

会場 長福寺（鹿角市花輪）
 期日 11月10日(水)～11日(木)
 日程 一日目 午前9時 受付
 二日目 午後3時 解散
 対象 11教区、18教区の梅花講員、
 詠範、師範
 内容 ・詠讚歌練習・勤行・坐禅
 ・講話(歌詞説明)
 ・万灯供養など
 会費 6,000円(申込金 1,000円
 当日会費 5,000円)
 定員 60人
 申込先 〒018-5141
 鹿角市八幡平字小豆沢40
 吉祥院
 TEL 0186-32-2042
 FAX 0186-32-5042

中央県南地区

会場 禅林寺（由利郡仁賀保町）
 日帰り講習会
 期日 11月21日(日)
 日程 午前9時 受付
 午後3時30分 解散
 対象 9教区、10教区、11教区、
 18教区以外の梅花講員及び、
 詠範、師範
 内容 ・詠讚歌練習
 ・講話(歌詞説明)
 講師 北海道 安藤英明一級師範
 県内師範
 会費 3,000円
 定員 100人
 申込先 〒018-0411
 由利郡仁賀保町
 院内字大門14-1
 禅林寺
 TEL/FAX 0184-36-2577

秋田県 梅花流師範・詠範の会役員名簿

平成11年3月改選 任期2年間

役職	氏名	寺院	教区	担当役割
会長	柴田弘一	東泉寺	2	
副会長	佐藤舜英	温泉寺	18	
副会長	茂林愛子	鳳来院	9	
副会長	近藤俊貞	円通寺	3	
顧問	亀谷健樹	太平寺	10	
顧問	佐藤仁鳳	全應寺	18	
顧問	丹生純雄	相川寺	12	
監事	奥山芳寿	浄福寺	10	
監事	中泉幸	乗福寺	1	
幹事	三浦昌彦	鱗勝院	1	●宗侶・寺族研修
幹事	小沢兼子	天昌寺	2	宗侶・寺族研修
幹事	佐藤敬子	東林寺	3	講員一泊研修
幹事	矢萩宗一	慶祥寺	3	宗侶・寺族研修
幹事	本間俊英	恵林寺	4	講員一泊研修
幹事	大坂勝子	興昌寺	4	講員一泊研修
幹事	浅田高明	長谷寺	4	講員一泊研修
幹事	柿崎隆稔	東山寺	5	宗侶・寺族研修
幹事	伊藤道人	太寧寺	7	講員一泊研修
幹事	伊藤道嗣	龍巖寺	8	
幹事	佐々木禪壹	徳昌寺	9	宗侶・寺族研修
幹事	柳川浩二	玉鳳院	9	●講員一泊研修
幹事	佐々木賢龍	耕田寺	10	講員一泊研修
幹事	奥山京子	福寿寺	10	広報部
幹事	保坂春聴	新田寺	10	●広報部
幹事	柏葉俊子	鏡得寺	11	宗侶・寺族研修
幹事	岩館祖芳	恩徳寺	11	●宗侶・寺族研修
幹事	金沢一弘	吉祥院	11	講員一泊研修
幹事	本間雅憲	普門院	12	
幹事	三浦賢翁	大龍寺	13	講員一泊研修
幹事	鈴木道雄	自性院	13	●講員一泊研修
幹事	山中律雄	禅林寺	14	●講員一泊研修
幹事	小野碩瑛	大慈寺	16	●宗侶・寺族研修
幹事	藤原文子	永安寺	18	講員一泊研修
幹事	佐藤俊晃	龍泉寺	18	●宗侶・寺族研修
幹事	蔦谷達徳	信正寺	18	宗侶・寺族研修
会計	佐藤道昭	東林寺	3	
事務局	嶋森憲雄	待月院	2	

編集後記

◎大変お待たせしました。原稿を寄せて戴きました皆様には感謝と同時に詫言を申し上げます。

◎今号は記事が多く、連載中の「写真で見る基本作法」(七)は紙面の都合により次号になりました。ご了承ください。

◎例年になく暑くて長い夏も終り、気がつけば秋本番となりました。四季のハッキリとしている秋田です、山々の紅葉もよし、近所の小さい秋もよし、大自然の妙を受けとめて下さい。

(春聴記)

